



# 2019年3月期 決算説明会

2019年5月23日

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

(証券コード: 6298)

<http://www.yac.co.jp>

## ▲ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼン資料で述べる将来の当社に関する見通しは、現時点での情報を元に作成したものです。

当社グループのお客様である半導体等の業界は技術革新のスピードが速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、各業界市況、設備投資の動向は、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

# Contents

## 1. ご挨拶、決算の概要

..... 代表取締役社長 百瀬 武文

## 2. 2019年3月期連結決算の概要

..... 取締役 常務執行役員 寺本 和政

## 3. ワイエイシイグループの今後の展望

..... 代表取締役社長 百瀬 武文

## 4. ビジネスユニットの概要及び今後の事業展開

..... メカトロニクスBU長 伊藤 利彦

..... ディ스플레이BU長 福田 辰徳

..... 産業機器BU長 副島 幸雄

..... 電子機器BU長 大倉 章裕

## 5. 質疑応答



# 1. ご挨拶、決算の総括

…………… 代表取締役社長 百瀬 武文

# 1 決算の総括



- 1. 前年比大幅増収・増益
  - 2. 売上高は過去最高額を更新
  - 3. 開示数字は全て達成
  - 4. 全てのセグメントで黒字を達成
- ディ스플레이関連  
売上は前年比4割増／営業利益は黒字転換  
受注・利益率は苦戦
  - メカトロニクス関連  
HDDが好調に推移し、売上・営利とも増加
  - クリーニングその他関連  
中国向け装置販売が好調に推移



## 2. 2019年3月期連結決算の概要

..... 取締役 常務執行役員 寺本 和政

# 2-1 事業結果



前年比大幅増収・増益／売上高は過去最高額を更新

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
売上高	28,871	36,025	7,153	24.8%
営業利益 (営業利益率)	1,074 (3.7%)	1,842 (5.1%)	768	71.5%
経常利益	955	1,852	897	93.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	403	1,094	690	170.9%
1株当たり 当期純利益(円)	45.13	121.68	76.55	169.6%
研究開発費	543	562	18	3.4%
設備投資額	1,780	1,104	△675	△38.0%
減価償却実施額	610	604	△6	△1.0%

# 2-2 事業別売上金額



全てのセグメントいずれも増収

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
ディスプレイ関連	11,212	15,883	4,670	41.7%
		アニール装置、ドライエッチング装置が好調		
メカトロニクス関連	16,188	18,122	1,933	11.9%
		HDD関連装置やイオンミリング装置等が好調		
クリーニングその他関連	1,470	2,019	549	37.4%
		中国向け装置が好調		
合計	28,871	36,025	7,153	24.8%

## 2-3 事業別営業利益



全てのセグメントいずれも増益

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
ディスプレイ関連	△173	262	435	—
メカトロニクス関連	1,201	1,315	113	9.5%
クリーニングその他 関連	△112	120	232	—
調整額 (共通経費)	158	144	△13	△8.8%
合計	1,074	1,842	768	71.5%

# 2-4 事業別受注・受注残金額



(単位:百万円)

中国経済の減速の影響により、ディスプレイ関連は厳しい状況

	区分	2018年3月期	2019年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
ディスプレイ関連	受注	23,205	6,326	△16,878	△72.7%
	受注残	17,389	7,832	△9,556	△55.0%
メカトロニクス関連	受注	17,254	17,116	△138	△0.8%
	受注残	5,502	4,497	△1,005	△18.3%
合計 クリーニングその他 関連は除く	受注	40,459	23,443	△17,016	△42.1%
	受注残	22,892	12,329	△10,562	△46.1%

# 2-5 貸借対照表のレビュー

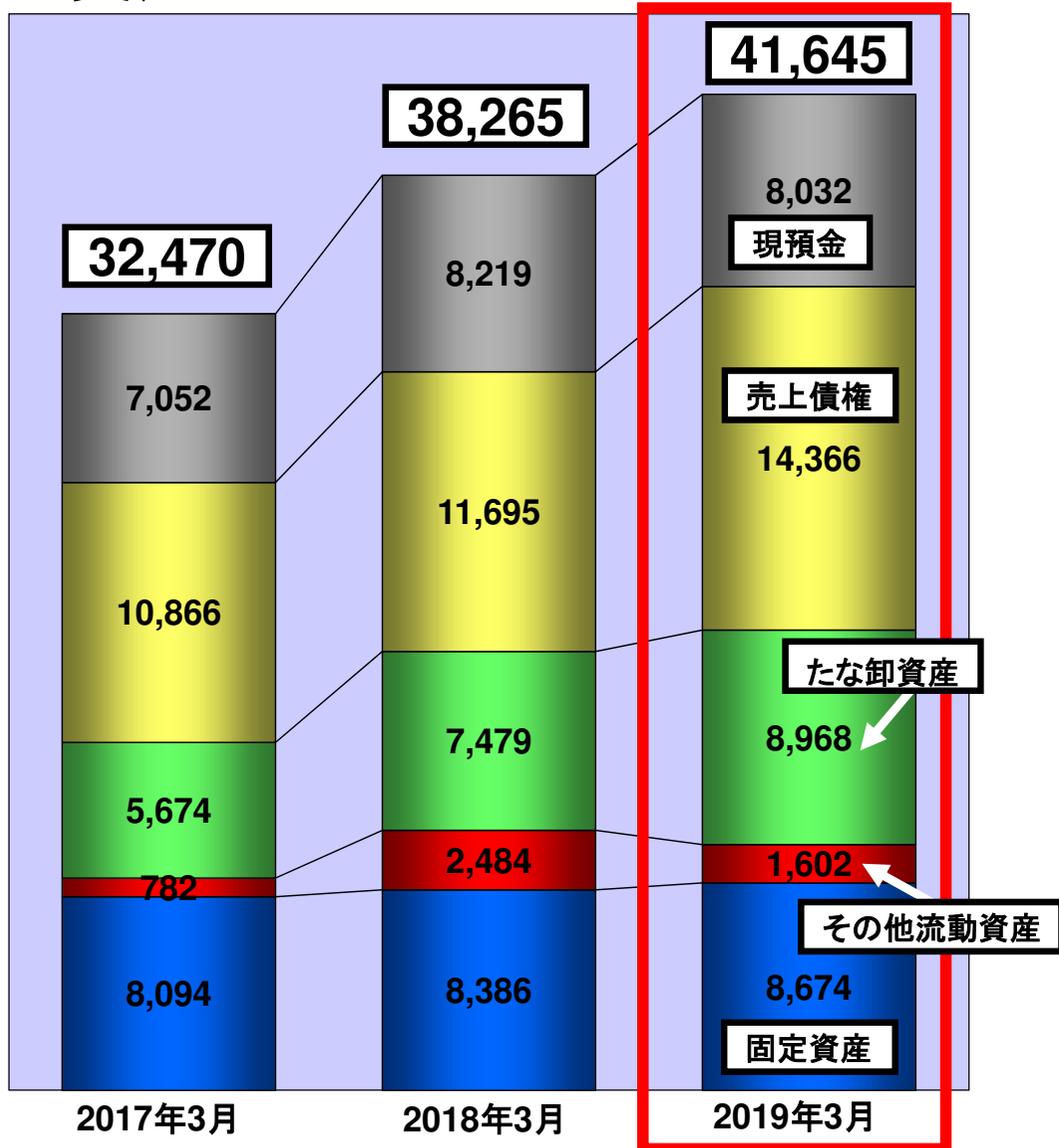


期末売上の増加に伴い、売掛債権が増加

受注の増加に伴い、たな卸資産が増加

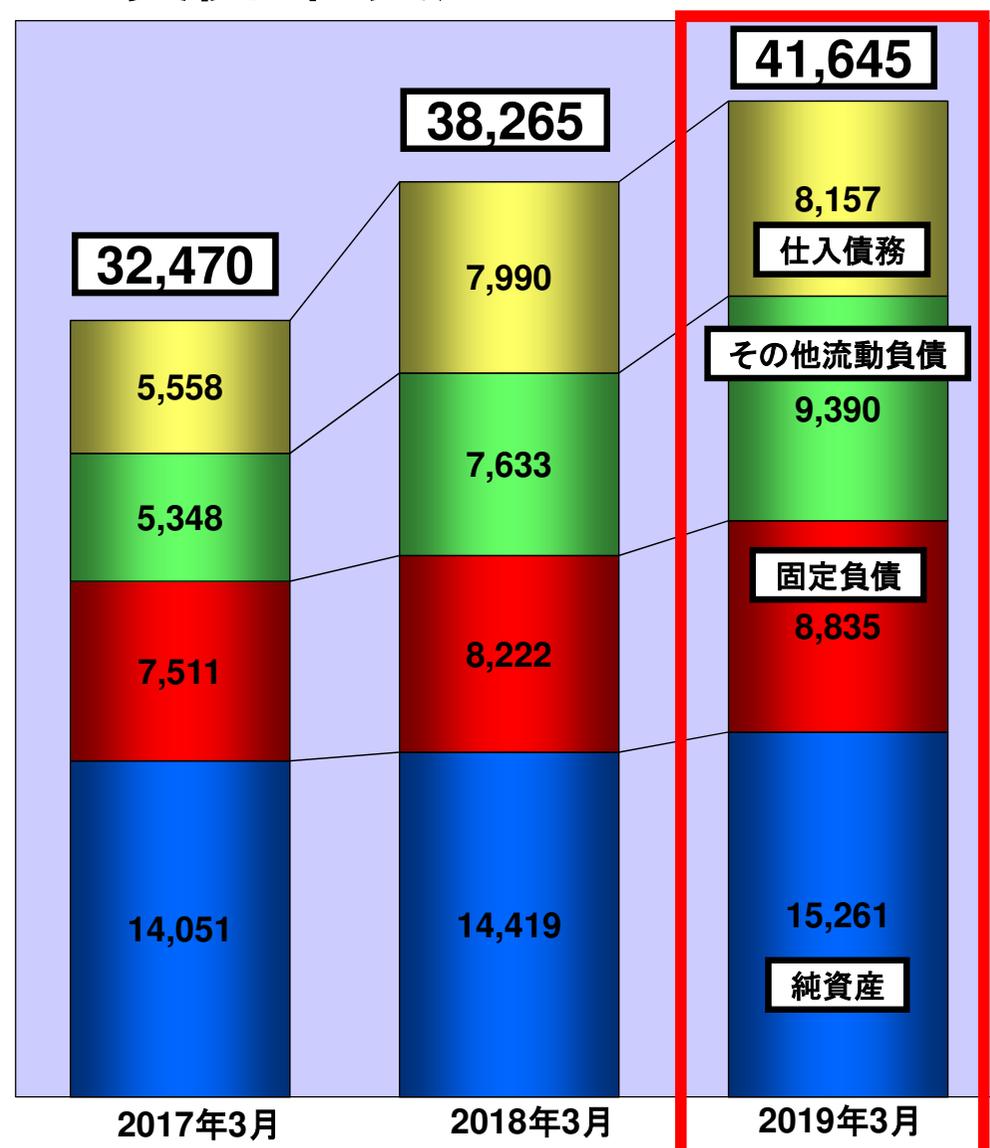
## <資産>

(単位:百万円)



## <負債・純資産>

(単位:百万円)



## 2-6 キャッシュフローのレビュー



大口売上の期ズレにより、営業C/Fが悪化

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
営業活動によるC/F	4,354	1,598	△1,505
投資活動によるC/F	△1,307	△1,808	99
財務活動によるC/F	△1,463	1,450	1,328
現金及び現金同等物の 期末残高	6,703	7,926	7,898



### 3. ワイエイシイグループの今後の展望

..... 代表取締役社長 百瀬 武文

# 3-1 ワイエイシイグループ企業理念



## 【創業理念】

(1973年)

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

## 【成長理念】

(1985年)

1. 社員の豊かさを追求する（経済的・精神的）
2. 国・地方自治体に、より多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

## 【究極の理念】

(2019年)

～より多く社会に貢献するために～

1. 社員の成長
2. グループの成長
3. 全員経営・連携と競争
4. 納税額の拡大

# 3-2 「究極の理念」の実現に向かって



## 「究極の理念」の実現に向かって

【創業理念】（1973年）  
【成長理念】（1985年）

【究極の理念】（2019年）  
～より多く社会に貢献する～

- (1) 社員の成長
- (2) グループの成長
- (3) 全員経営・連携と競争
- (4) 納税額の拡大

より多く実現するために

- (1) 規模の拡大
- (2) 一気呵成に  
量産新製品の事業化
- (3) 高収益体質の構築
- (4) 財務体質の強化

基本戦略  
(3-3)

成功への条件  
(3-4)

## 1. 企業規模の拡大

### (1) 規模の拡大

1. 主力製品のシェアUPと消耗品・サービスの急拡大
2. 一気呵成に量産新製品の事業化
3. M&A・アライアンスの推進

### (2) 一気呵成に量産新製品の事業化

1. 常に新製品への強烈な意識を持続している
2. 顧客をはじめ、人々との接触の中で、量産ニーズを捉える
3. 時代の流れをいち早く察知して、ニーズを考察する

## 2. 企業体質の向上

### (1) 高収益体質の確立（推進リーダーの活躍に期待）

#### 1. 原価低減・コスト削減

- |          |        |        |
|----------|--------|--------|
| ① 依命システム | ③ 早期検収 | ⑤ 品質管理 |
| ② 完成機出荷  | ④ ミス防止 | ⑥ 経費節減 |

### (2) 財務体質の強化

- ① 売掛金の早期回収
- ② 資本金の増強
- ③ キャッシュフローの健全化

# 3-4 成功への条件



## 1. トップの成長への熱い執念がすべてを決する

- ① トップと幹部のチームワークが完璧である
- ② トップ・幹部から社員へ会社方針が周知徹底されている
- ③ 経営手法はP-D-C-Aで推進

## 2. 全員経営

- ① 目標達成への戦略・戦術
  - (1) トップが立案し、全社員と議論の上決定する
  - (2) すべての社員が高いモチベーションを持って職責を全うする
- ② 働き方改革による生産性の倍増
- ③ 職場は常に明るく、元気よく、活気に満ちている

## 3. 連携と競争

「究極の理念」実現に向かったの連携と、各社間の業績の競争

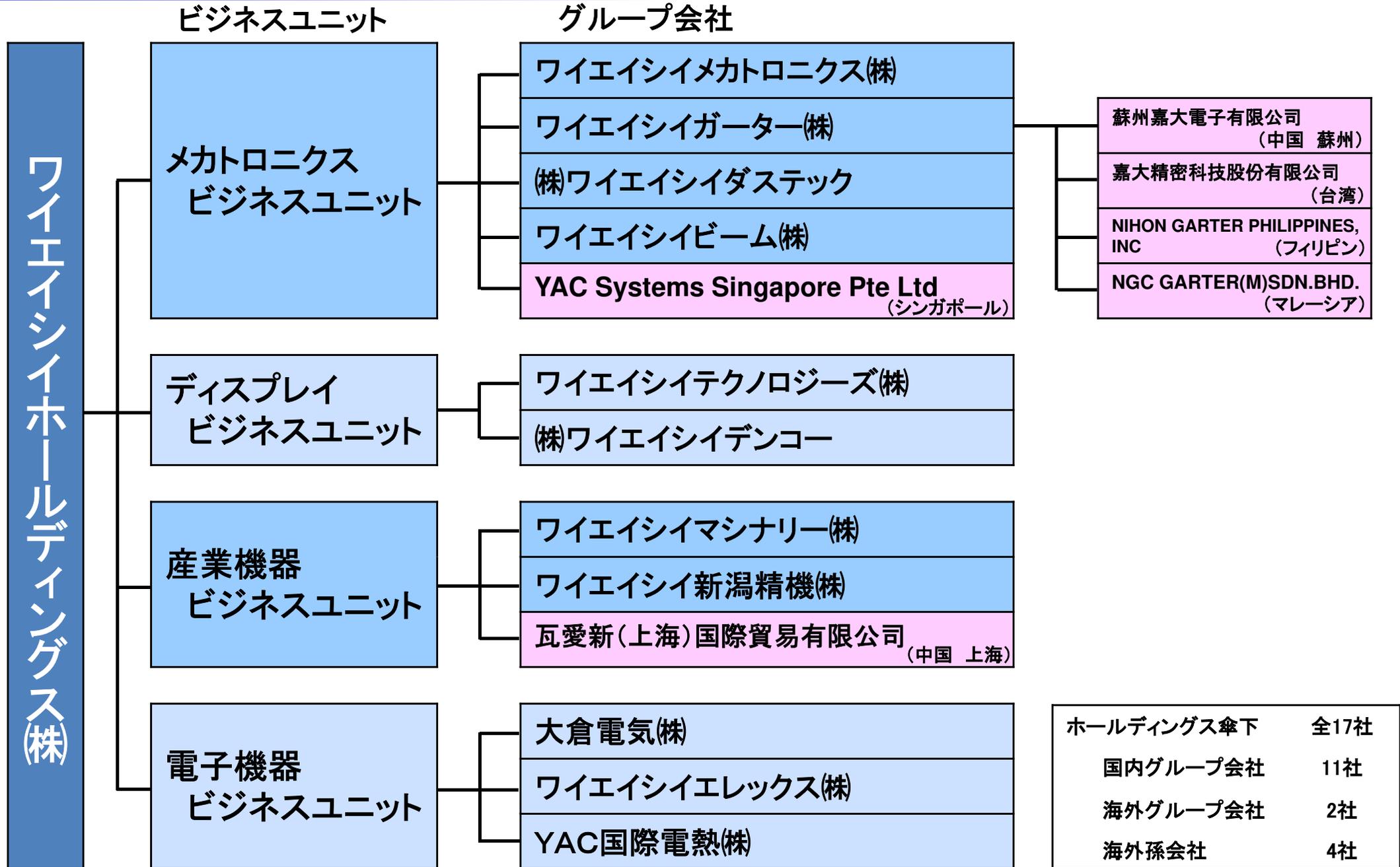
# 3-5 ワイエイシイグループの当面の目標

## 《ワイエイシイグループの当面の目標》

### 企業価値の向上

主な取組	
1. ビジネスユニット制の導入	後述
2. 新3ヶ年計画の策定	年度毎に達成すべき目標を設定
3. 規模の拡大、高収益体質の構築	BU体制で加速
4. 量産新製品の開発を強化	業績の急拡大
5. 働き方改革	生産性の向上
6. 社員の経営参画(全員野球) 連携と競争	①戦略戦術の立案への参画 ②経営改革の提案 ③将来の目標を全社員が共有
7. 積極的なM&A展開	第4次産業革命関連の強化

# 3-6 ワイエイシイグループの構成



# 3-7 成長を加速する新たな体制

## ビジネスユニット制の導入について

### 目的

- ① 業態の近いグループ会社をビジネスユニット(以下「BU」)単位でまとめ、各BU毎に損益責任を持つと同時に、BU及び各社の競争を促進し、事業の成長の加速を図る
- ② BU内各社の人的・物的資産や情報・ノウハウ等の有効活用により、生産性の向上を図る
- ③ 次世代のリーダーの育成を図る

### ビジネスユニット長の役割

- ① 高成長を目指し、スピード感のある施策を積極的に推進し、結果を出す
- ② BU及び各社の損益責任

前年比

■ 売上	<u>360億円</u>	(前年並み)
■ 営業利益	<u>20億円</u>	(+2億円)

1. 米中貿易摩擦等による世界経済の減速が気がかりだが、当社の得意分野である第4次産業革関連等の分野に大きな成長の可能性がある
2. 高収益体質へ、粗利率の改善を実行
3. M&Aは常時検討

# 3-9 2020年3月期事業計画



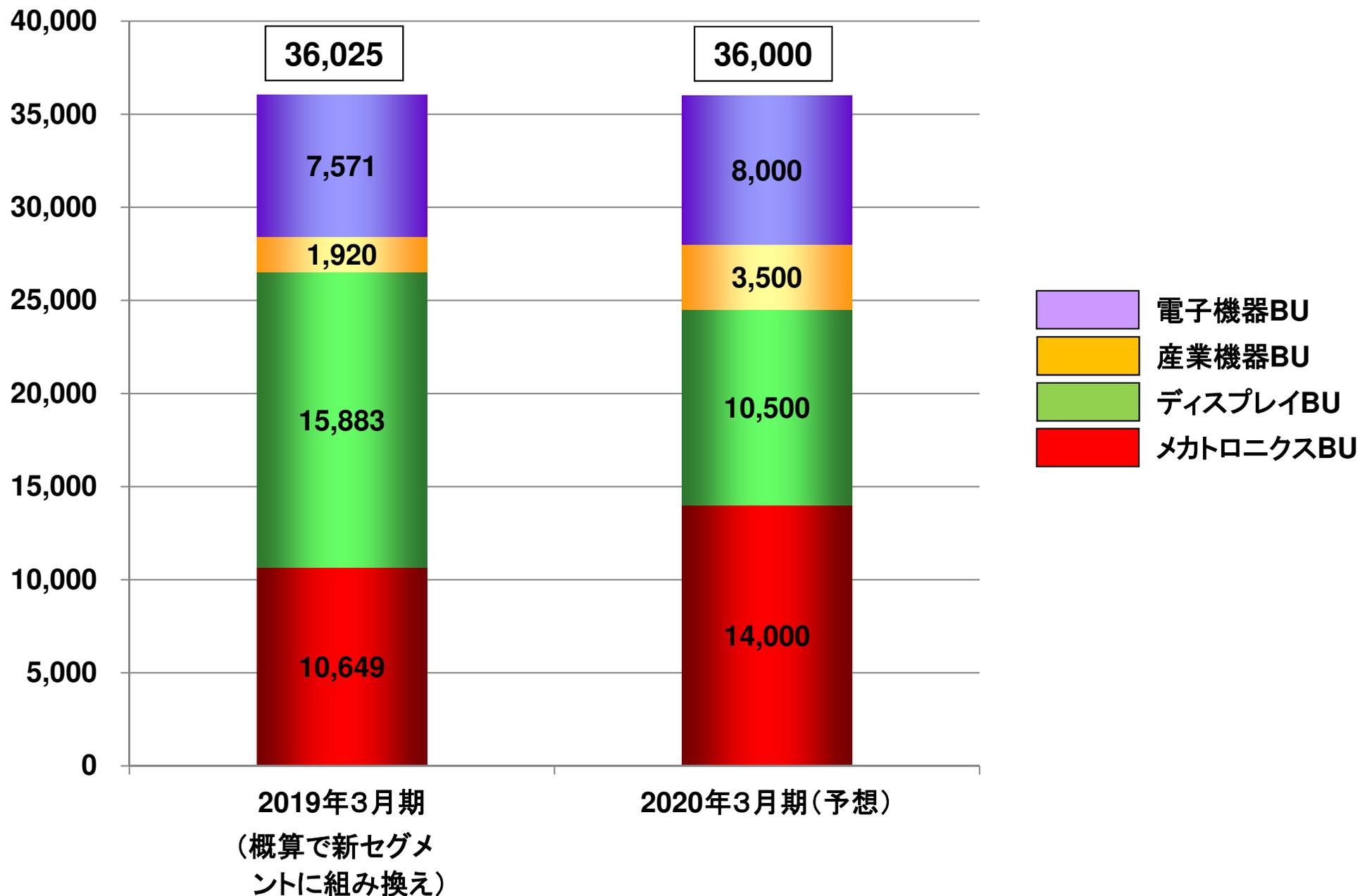
(単位:百万円)

	2017年 3月期 (実績)	2018年 3月期 (実績)	2019年 3月期 (実績)	2020年 3月期 (見込)	前年比 増減額 (見込)	前年比 増減率 (見込)
売上高	29,452	28,871	36,025	36,000	△25	△0.1%
営業利益	1,036	1,074	1,842	2,000	157	8.5%
経常利益	1,122	955	1,852	1,900	47	2.6%
当期純利益	790	403	1,094	1,200	105	9.7%
1株当たり 当期純利益(円)	88.51	45.13	121.68	133.14	—	—

# 3-10 事業別売上計画



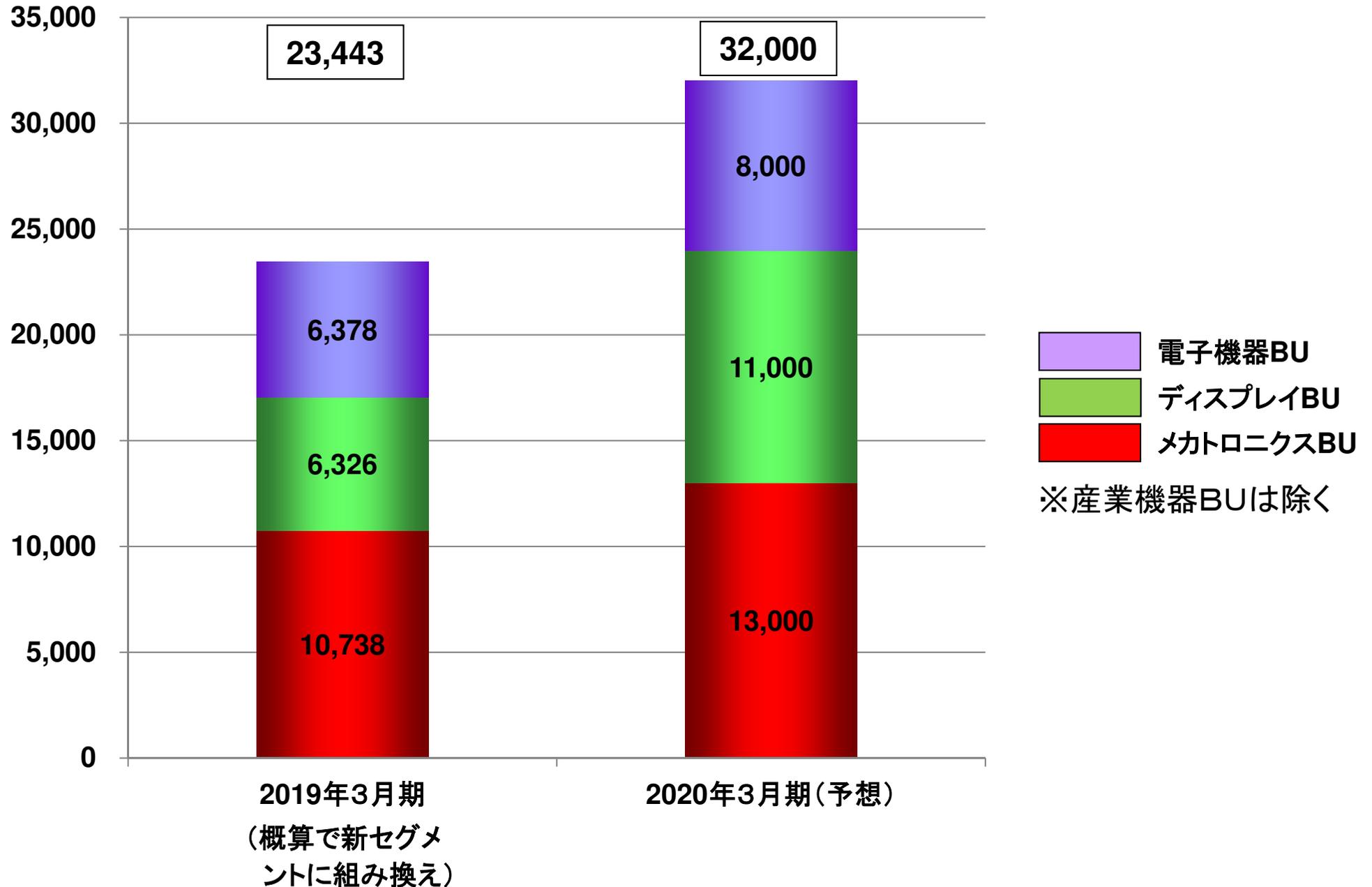
(単位:百万円)



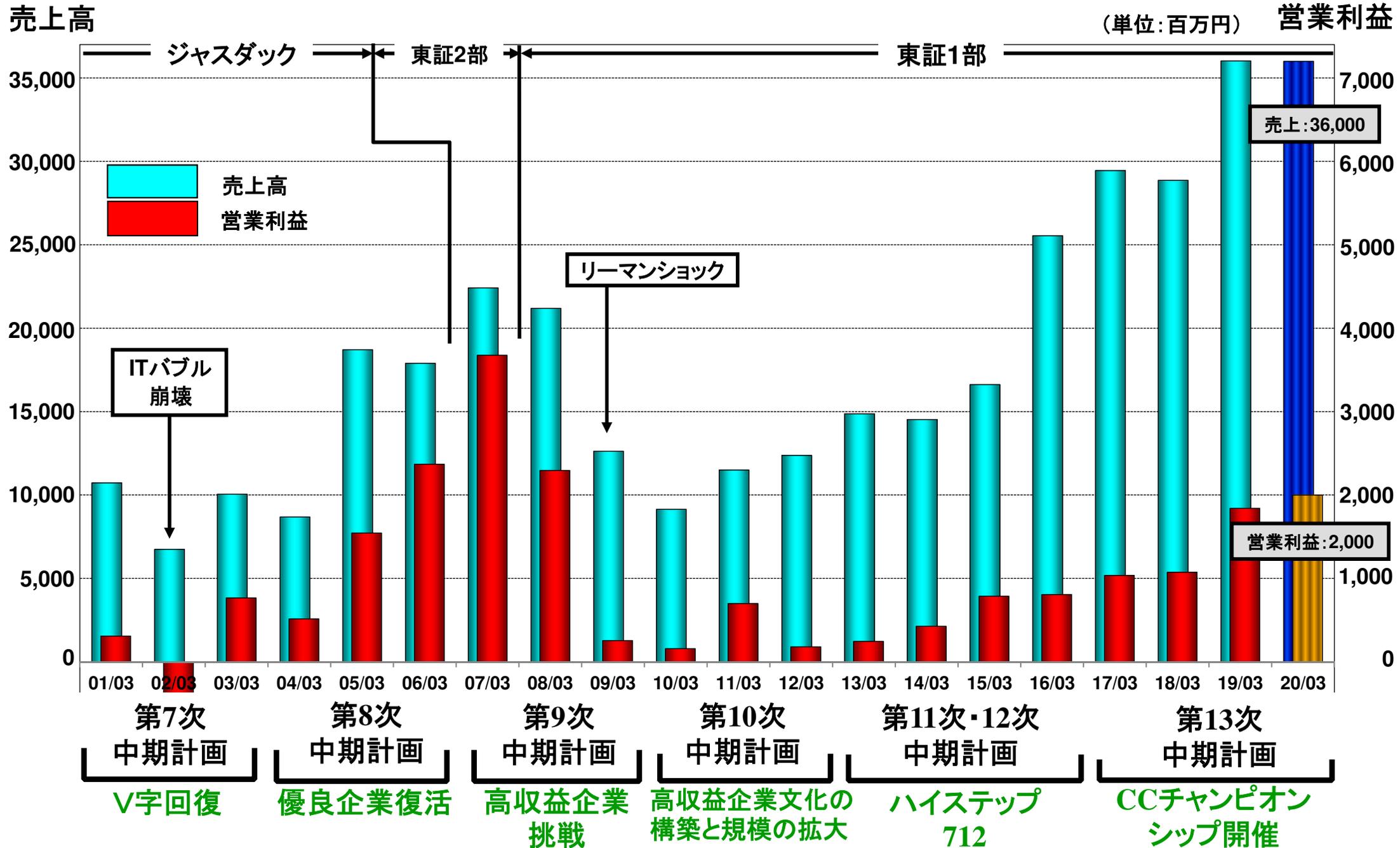
# 3-11 事業別受注計画 (連結ベース)



(単位:百万円)



# 3-12 過去の業績と2020年3月期見込





## 4. ビジネスユニットの概要及び今後の事業展開

..... **メカトロニクスBU長**      **伊藤 利彦**

..... **ディスプレイBU長**      **福田 辰徳**

..... **産業機器BU長**      **副島 幸雄**

..... **電子機器BU長**      **大倉 章裕**

# メカトロニクスビジネスユニットの紹介

## - 2019.03期決算説明会資料 -

	2019年度	2021年度
メカトロニクスB.U	14,000	18,300
ディスプレイB.U	10,500	16,000
産業機器B.U	3,500	5,700
電子機器B.U	8,000	10,000
計	36,000	50,000

2019年05月23日  
ワイエイシーホールディングス(株)  
メカトロニクスBU 伊藤利彦

# 1. 事業概要



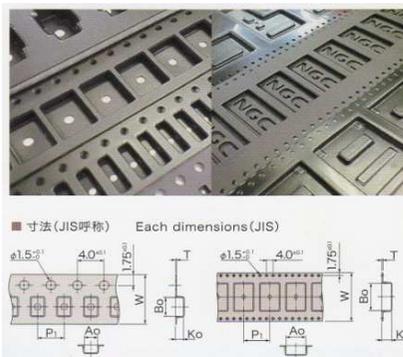
## ◎メカトロニクス(YSS)

- ・HDバーニッシャー装置
- ・クリーンコンベア
- ・太陽電池用テクスチャリング装置
- ・テストハンドラー



## ◎ガーター

- ・エンボスキャリアテープ
- ・LED分類機
- ・テーピング機



## ◎ダステック

- ・スライサー
- ・コアドリルマシン
- ・リセール事業



## ◎ビーム

- ・レーザーアニーラ
- ・レーザードリラー
- ・イオンビームミリング装置

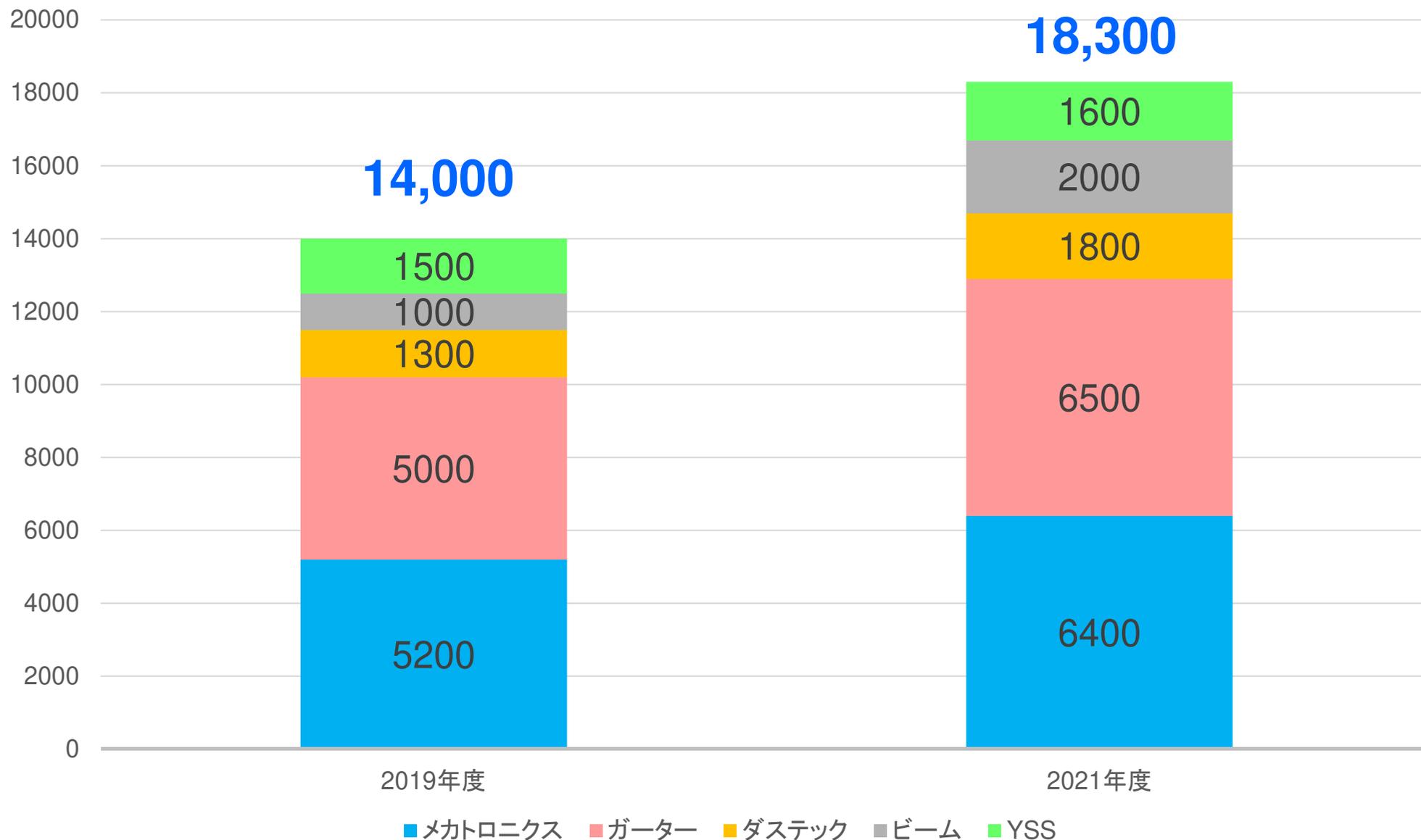


## 2. 今期の事業目標値



### メカトロニクスビジネスユニット年度別売上

(M円)



# 3. 今後の事業展望



## ◎ビジネスユニット全体

- ・連携と競争によるビジネスユニット内各社の事業成長を計る。
- ・各社シナジー効果による受注拡大及び、生産性の向上を計る。

## ◎メカトロニクス(YSS)

- ・HD業界は維持するも、新コア技術(画像、ロボット等)を確立し、事業の範囲を拡大する。
- ・次世代ハンドラー拡販と半導体後工程自動化システムの取込み
- ・高効率太陽電池向けテクスチャリング装置の中国、インド、中近東での拡販

## ◎ガーター

- ・極小、極薄製品向けエンボスキャリアテープ、及び自動機の拡販
- ・半導体向け検査機の拡販
- ・研究開発組織の再編を計り、海外での開発を促進する。

## ◎ダステック

- ・超音波カッター、超音波MLCCカッターの開発、販売
- ・医療分野でウイルスゲートキーパーの開発、販売

## ◎ビーム

- ・300mmウエハ対応レーザーアニール装置の開発、販売
- ・中小型イオンビームミリング装置の開発、販売

# ディスプレイビジネスユニットの紹介

- 2019.03期決算説明会資料 -

	2019年度	2021年度
メカトロニクスB.U	14,000	18,300
ディスプレイB.U	10,500	16,000
産業機器B.U	3,500	5,700
電子機器B.U	8,000	10,000
計	36,000	50,000

2019年05月23日  
ワイエイシーホールディングス(株)  
ディスプレイBU 福田 辰徳

# 1. 事業概要



## ■ ディ스플레이BU概要

- ディスプレイ製造メーカーに向け、主にDryエッチング、アニール装置を製造販売
- 自動車業界・電子部品業界・その他分野に精密加熱装置等の販売

## ■ BUとしての事業効果

- 顧客・市場情報の共有
- 基盤技術融合
- 人財融合によるRテーマの創出
- 開発のスピードアップ

## ■ 販売品目と2018年度成果

- OLED用5処理室エッチング量産機出荷
- 新OLED用アニール装置で大幅増収

## ■ 2019年度計画

- プラズマ源応用新プロセスの実用化
- 新OLED用アニール装置継続受注
- IGZO用G10.5基板対応装置の販売
- 電子部品分野拡大へ向けた事業開拓

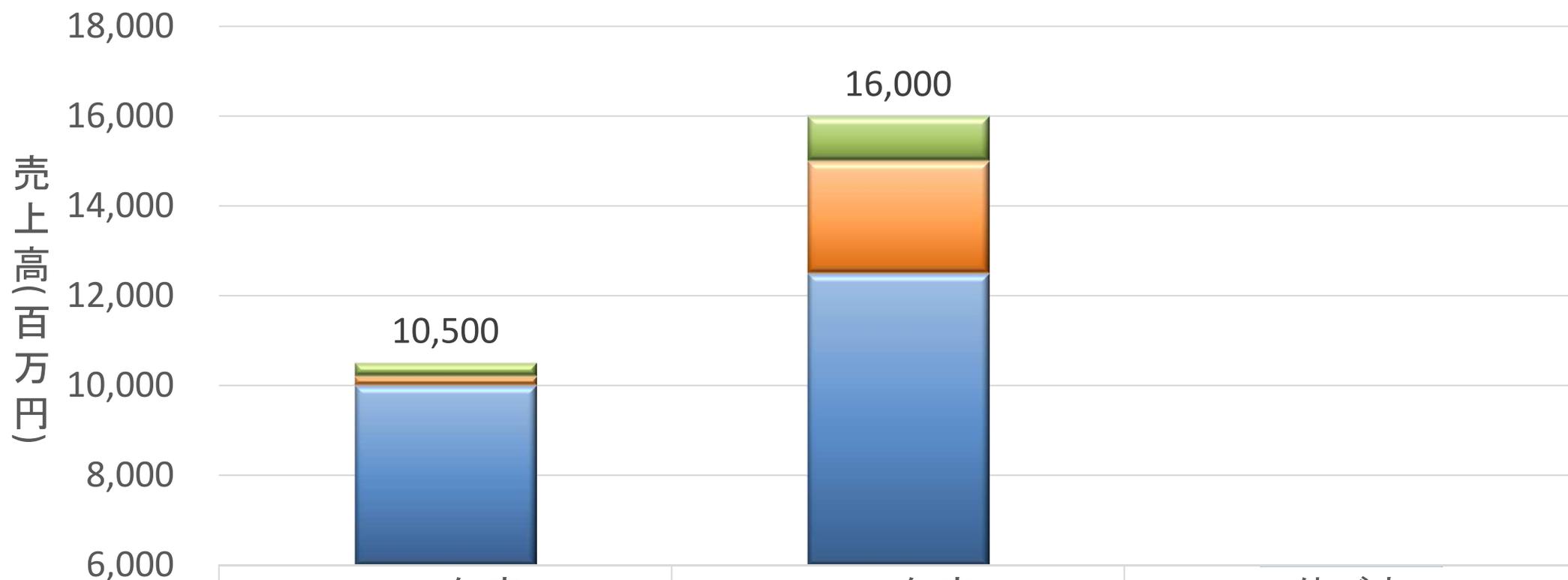
【製品】G10.5加熱装置



## 2. 今後の事業目標値



### 2021年度へ向けた事業分野別売上高推移

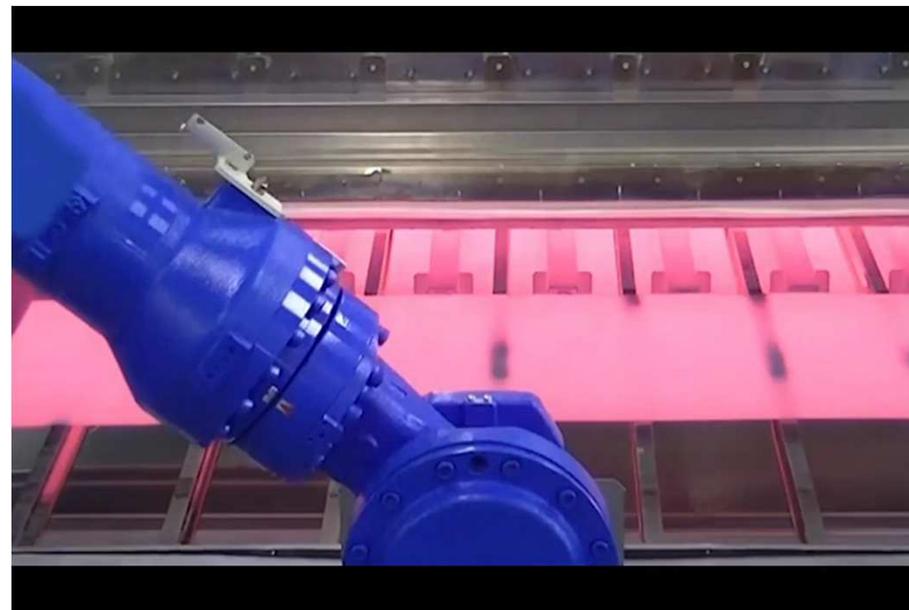
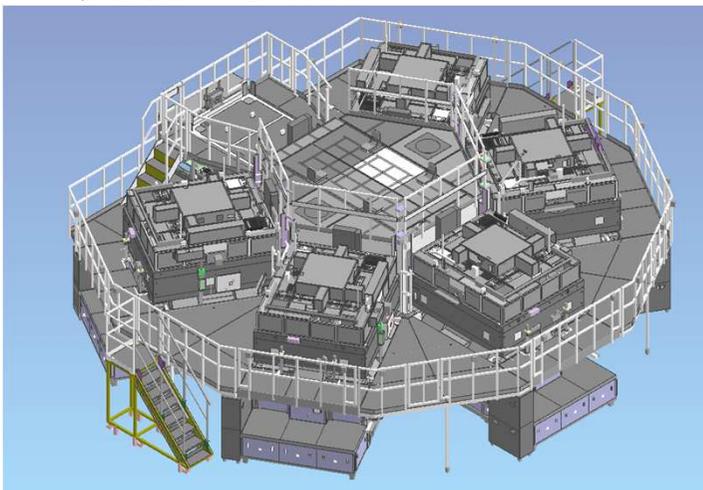


	2019年度	2021年度	伸び率
Total	10,500	16,000	152%
Car	300	1,000	333%
Electronic	200	2,500	1250%
Display	10,000	12,500	125%

# 3. 今後の事業展開



- **ディスプレイ市場**
  - Dryエッチング、アニール装置の販売を継続
  - 新規ディスプレイ技術に向けた装置展開
- **電子部品市場**
  - 半導体応用製品分野への進出
  - 既存加熱用機器の拡販
- **自動車関連市場**
  - カーエレクトロニクス用製品分野への進出
  - ホットスタンピング加熱装置の海外展開
  - ヒーター製品の拡販



# 産業機器ビジネスユニットの紹介

## - 2019.03期決算説明会資料 -

	2019年度	2021年度
メカトロニクスB.U	14,000	18,300
ディスプレイB.U	10,500	16,000
産業機器B.U	3,500	5,700
電子機器B.U	8,000	10,000
計	36,000	50,000

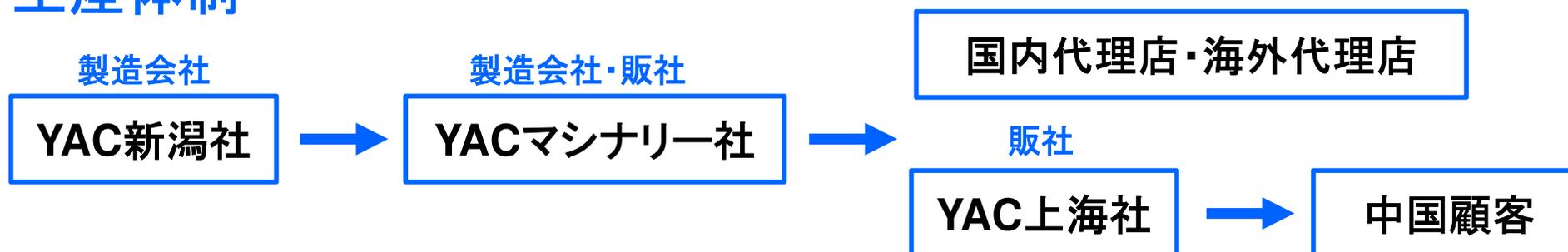
2019年05月23日  
ワイエイシーホールディングス(株)  
産業機器BU 副島幸雄

## ■ 販売品目と2018年実績

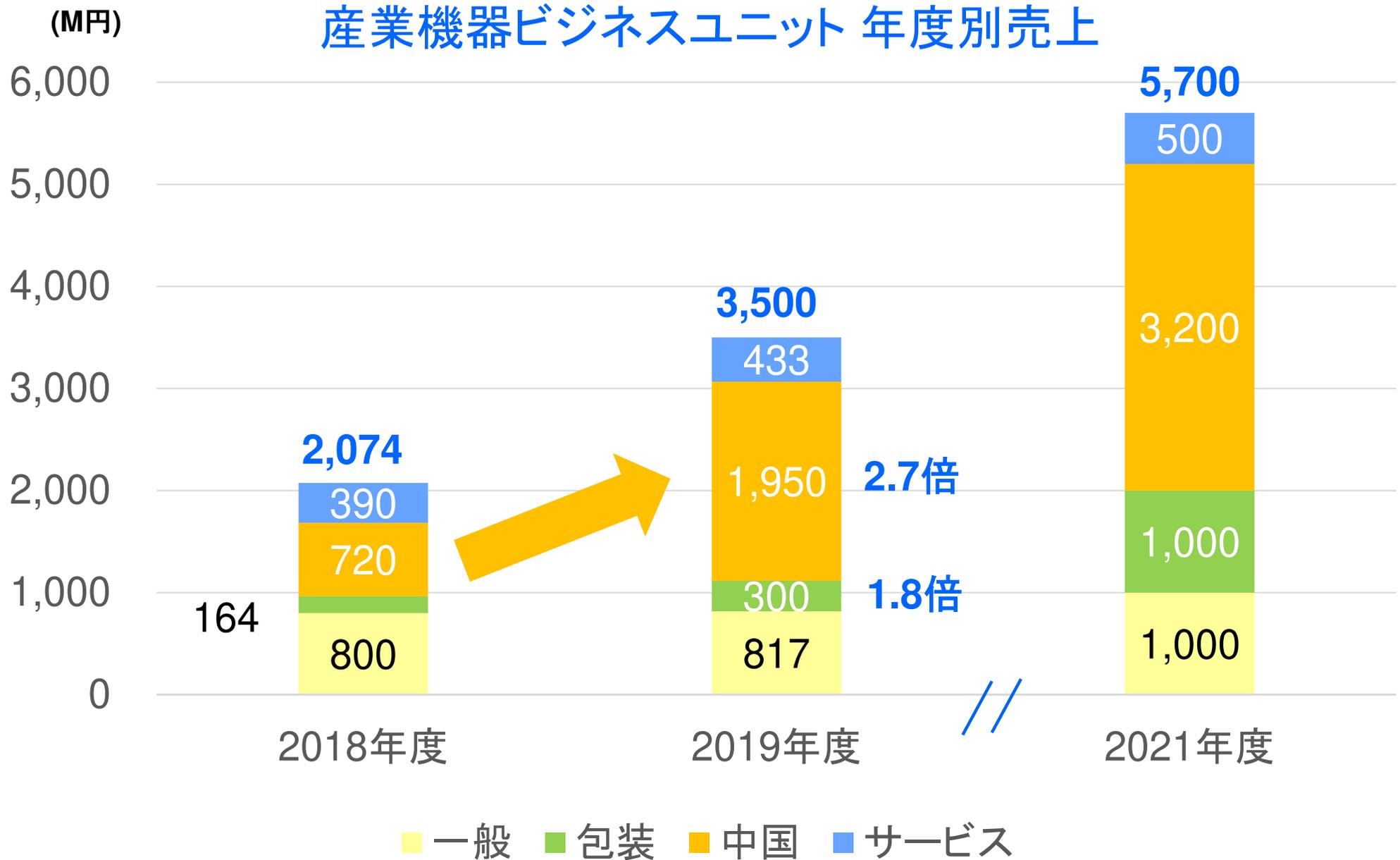
- クリーニング業界向自動包装機の製造販売、分類分配機の製造販売。
- ワイシャツ仕上機、ユニフォーム仕上げ機の製造販売。
- ウール仕上機、アパレル向機械の製造販売。
- 2018年販売実績 900台



## ■ 生産体制



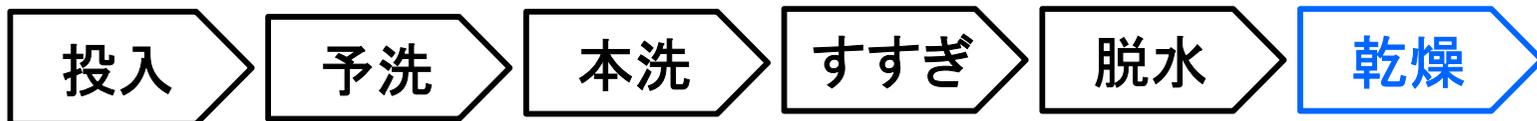
## 2. 今期の事業目標値



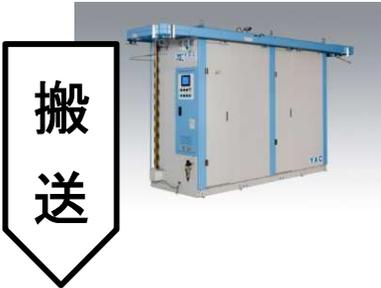
# 3. 今後の事業展望



- ・国内の市場はシュリンクしている。国内では包装をコア技術としているので自動機を市場投入していく。
- ・中国での販売網を構築した。メディカルリネンとオンラインビジネスである。



メディカルリネン工場例

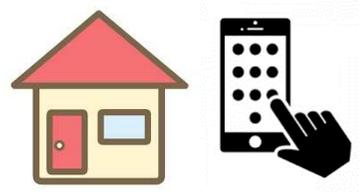


搬送



・中国の環境レギュレーションの変更が相次ぐため、クリーンな工場が必要。

オンラインビジネス



・ビジネスモデル変更で新規自動化ラインが増加

# 電子機器ビジネスユニットの紹介

- 2019.03期決算説明会資料 -

	2019年度	2021年度
メカトロニクスB.U	14,000	18,300
ディスプレイB.U	10,500	16,000
産業機器B.U	3,500	5,700
電子機器B.U	8,000	10,000
計	36,000	50,000

2019年05月23日  
ワイエイシーホールディングス(株)  
電子機器BU大倉 章裕

## ■ BU各社販売品目

- ワイエイシイエレックス:メディカル製品、電子機器製品、電子部品
- 大倉電気:制御通信機器、工業計器、半導体製造装置関連
- ワイエイシイ国際電熱:金型加熱装置

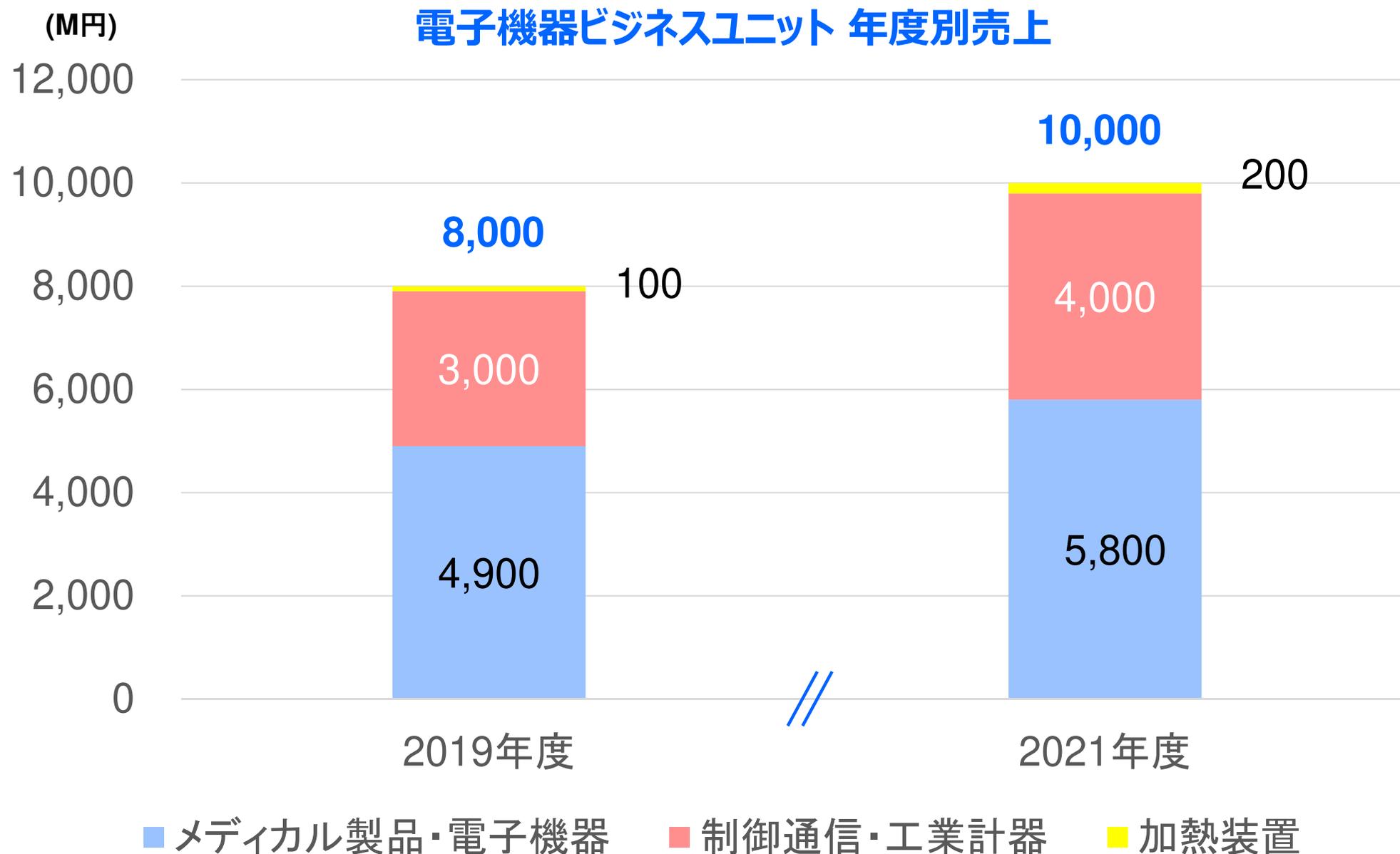


## ■ 主力製品と市場動向

- メディカル:海外向け透析装置  
⇒成長の見込める中南米、東南アジア、インド、中東地域
- 電力:IPを中心とした監視制御装置  
⇒広域的な電力流通量の拡大



## 2. 今期の事業目標値



## メ ディ カ ル

中南米、東南アジア、インドなど、今後の経済成長にともない需要増。製品差別化がポイント

## 制御通信機器

広域電力流通整備による情報伝送需要増。電力整備保守点検自動化による新規機器需要増

## ビジネスユニットシナジー

メデイカル × 通信 = 遠隔医療

今後遠隔医療の需要は高まる。メデイカル機器と通信技術の組合せは今後重要性が高くなる。BU内技術の連携をはかることにより、より幅の広い機器及びサービスの提案が可能となる





さあ今日も、

ときめきと感動の日々であれ！

しなやか先端技術企業集団  
ワイエイシーグループ